

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 20 日現在

機関番号：26401

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2014～2015

課題番号：26893242

研究課題名(和文)高齢者のリロケーションを支援する看護ケア

研究課題名(英文)The nursing care which supports elderly people's relocation

研究代表者

渡邊 美保 (Watanabe, Miho)

高知県立大学・看護学部・講師

研究者番号：70571313

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：手術を受ける高齢者は、しばしば回復ケアを受けるため別の病院に転院する。このような場所の変化は、高齢者の混乱を引き起こし、困難な状況を生み出す。それゆえに、高齢者のリロケーションを支援するケアが求められる。

本研究は、7名の看護師を対象に高齢者のリロケーションケアを明らかにするためにインタビューを行った。看護師は、高齢者の人生史を基盤に新たな療養環境に馴染めるよう工夫を行っていた。さらに、高齢者の自由な生活を尊重し、ニーズを汲み取り、健康維持に働きかけていた。今後、研究成果をもとに、高齢者のリロケーションダメージの回避につながるケアガイドラインの開発を行っていく必要性が示唆された。

研究成果の概要(英文)： The elderly who receive an operation are often relocated to another hospital on units to receive recovery care before the discharge. These change in location often cause confusion and difficult among the elderly. Therefore, the nurse needs to perform the care which supports adaptation of relocation of elderly people.

This study interviewed 7 nurses in hospitals to clarify the relocation care which the nurse is performing. Nurses have provided devised care to the elderly that reflect the elderly patient's life style prior to hospitalization so that elderly can adapt to the new environment more easily. Furthermore, the nurse respected elderly people's free life, the nurse took elderly people's needs into consideration, and was supporting health maintenance. The necessity of developing the care guideline which leads to evasion of elderly people's relocation damage based on the result of research from now on was suggested.

研究分野：老年看護学

キーワード：リロケーション 高齢者 看護ケア

1. 研究開始当初の背景

平成 23 年の介護保険制度の改正では、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるように、地域包括ケアシステムの実現に向けた取り組みをねらいとしている（厚生労働統計協会、2013）。これらの介護保険制度の改正・診療報酬の改定は、在院日数の短縮化に反映され、今後ますます加速することが予測される。そのような状況のなかで、高齢者が健康問題を抱えながらも、住み慣れた自宅で生活できるよう支援していくためには、移転（以下、リロケーション）を支援するための看護ケアが重要となるであろう。

特に、回復期病院における高齢者のリロケーションに対する看護ケアは、高齢者のその後の生活の場を左右する重要な鍵を担っていると考える。リロケーションは、場所や住居とともに権利や財産など付随するものも一緒に移動するという意味を含んでおり、本研究では、「リロケーションとは、生活・空間の変化、対人的環境の変化、自己の変化を伴うものであり、混乱に遭遇しつつ、安定した生活を獲得するために対処や立て直しを行うことである」と定義した（渡邊, 2014）。

先行研究では、リロケーションによって高齢者の健康状態の変化やそれに伴う混乱（Smith et al.,1975）、家族の挫折感、無力感の経験（Ryan et al.,2000）などが明らかになっている。これらは、リロケーションストレスシンドローム（Relocation Stress(Syndrome)）として看護診断に明記されている。リロケーションストレスシンドロームは、「ある環境から別の環境に移ることに引き続く、生理的、そして/または心理社会的な混乱」（Marion, 2007）であるといわれている。

このように、リロケーションは、高齢者と家族のライフスタイルの変化、環境の変化、身体面の変化などに影響を及ぼし、高齢者の健康に肯定的にも否定的にも影響を及ぼす

ものであるといえよう。

2. 研究の目的

本研究の目的は、高齢者が住み慣れた地域で生活を続けていくことを支援するために、リロケーションを支援する看護ケアを明らかにし、看護ケアのモデルを構築することである。

3. 研究の方法

(1) 研究デザイン

質的記述的方法

(2) 研究協力者

本研究では、急性期病院から回復期病院にリロケーションした高齢者の看護ケアに関わる看護師 7 名を対象に先行研究から作成したリロケーションの枠組みを用いて、半構造化面接を行った。

(3) 倫理的配慮

本研究は、高知県立大学看護研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

①倫理審査承認後、病院長、看護部長あてに研究計画書概要と研究協力をお願いを用いて、研究の趣旨、研究方法、データ収集期間、データ分析方法、研究への自由意思の尊重について口頭と書面にて説明を行い、承諾を得て実施した。

②研究協力者の選定は、研究協力の得られた病院の看護師長に依頼した。

③研究の同意が得られた研究協力者には、研究計画書概要と研究協力をお願いを用いて、口頭と書面にて説明を行い、同意を得た。その際、研究への自由意思の尊重、匿名性の保持、プライバシーへの配慮、研究協力の中断の権利を説明した。

インタビューの内容は個人の看護実践に関するものであるが、看護実践の評価や批判を行うものではないことを説明した。

(4) 調査方法

同意が得られた回復期病棟に勤務する7名の看護師を対象に高齢者のリロケーションに纏わるケアについて、半構造化面接を行った。

半構造化面接では、急性期から回復期病院に転院してきた高齢者のケースを想起してもらいながら、高齢者が新しい場所に適応できるようにどのようなケアを行っているのか、そのケアを行った時の高齢者の反応を含めて語ってもらった。

(5) 分析方法

語られた内容は逐語録に記録した。次に、逐語録から高齢者のリロケーションケアに関する内容を抽出し、コード化を行った。

コードとその内容の類似性、共通性、各コードの関係について、比較検討を重ね、カテゴリー化を行った。

分析の全過程では、信用可能性を確保するために、質的研究経験のある看護研究者にスーパーバイズを受け、内容の検討を行った。

4. 研究成果

(1) 研究協力者の概要

研究協力者の同意が得られた7名の看護師を対象に半構造化面接を行った。

研究協力者は、30代前半～40代後半の看護師7名であった。面接時間は、41～77分であり、平均55.7分であった。

(2) 高齢者のリロケーションを支援する看護ケア

高齢者のリロケーションを支援する看護ケアとして、以下の18の大カテゴリーが抽出された。

18の詳細なカテゴリーには、【経過をたどる】【先を見通し準備に取り掛かる】【意向のずれを調整する】【目指す方向性を定める】

【一歩ずつ関係性を築く】【馴染みのある生活を生み出す】【安心できる場面をつくる】【希望と現実との折り合いをつける】【気持ちを持ち上げる】【持っている力を見定める】【人間らしい生活に近づける】【状態の変化を注意深く捉える】【リスクを想定した上でニーズの充足を図る】【生活機能の獲得を高める】【その人の物差しに合わせる】

【病気を肯定的に捉えなおす】【家に帰れるという実感を高める】【活用可能な資源を提示する】が抽出された。

今後、これら的高齢者のリロケーションケアの要素を抽出し、臨床で使用できる高齢者のリロケーションケアガイドラインの開発を行うことが課題である。

(3) 引用文献

- ①厚生労働統計協会 (2013) : 国民の福祉と介護の動向・厚生 の 指 標、60 (10)、東京、147-155.
- ②渡邊美保、野嶋佐由美 (2014) : リロケーションの概念分析、高知女子大学看護学会誌、40 (1)、2-12.
- ③Smith RT, Brank FN (1975) : Effects of enforced relocation on life adjustment in a nursing home, International Journal Of Aging & Human Development, 6 (3), 249-259.
- ④Ryan AA, Scullion HF (2000) : Nursing home placement: an exploration of the experiences of family cares, Journal of Advanced Nursing, 32(5), 1187-1195.
- ⑤Marion Johnson , Howard Butcher , Meridean Maas ほか (2007) : 看護診断・成果・介入—NANDA NOC NIC のリンクージ, 医学書院, 第2版第2刷, 東京, 342-349.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)
〔雑誌論文〕(計1件)

①渡邊美保, 野嶋佐由美 (2014) : リロケーションの概念分析, 高知女子大学看護学会誌, 40 (1), 2-12, 査読あり.

[学会発表] (計 0 件)

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

出願年月日 :

国内外の別 :

○取得状況 (計 0 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

取得年月日 :

国内外の別 :

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

渡邊 美保 (WATANABE, Miho)

高知県立大学・看護学部・講師

研究者番号 : 70571313